

9月24日 体験型講座：減災・災害対応訓練の報告

(当日、実施された「アンケート調査の結果のまとめ」を含む)

【主催】海老名災害ボランティアネットワーク、協力：海老名市社会福祉協議会、後援：海老名市
【日時】2017年9月24日(日)10時～13時(予定より早く12時40分頃終了)
【場所】海老名市総合福祉会館1階(「元気クラブ」及び室外)
【参加】市民22名、【スタッフ】海老名災ボラ会員9名、社協1名、危機管理課2名、合計34名
【資料】「体験型講座：減災・災害対応訓練一事前の備えと体験型訓練のテキスト」

〈開会式〉 10時～10時10分

24日、午前9時に災ボラ会員などスタッフが集合した。訓練のための諸用具を福祉会館1階内外に配置した。9時30分より参加者の受付を開始、参加者は養生テープに班名と氏名を自分で記入し服に貼り付けた。体験講座に応募した24名のうち、22名が出席した。

10時より社協(中島氏)の司会で、開会式が始まった。最初に海老名災ボラの橋本代表があいさつに立ち、「自分の命は自分で守る」という考え方を基本に体験型講座を受けて欲しいと述べた。また、危機管理課から、海老名市(危機管理課)と社協と災ボラが連携・協力しながら、災害への対応を進めてきたことを紹介した。最後に、今日の体験型講座の進め方について「参加者を3つの班に分け、諸道具が設置されている場所を順に回りながら、講習を受けて頂きたい」と述べ、併せて「シェイクアウト訓練」についても説明した(福田副代表)。

〈班別に各課目を巡回〉10時15分～12時過ぎ

出席者はA班、B班、C班の3班に分かれ、福祉会館の「元気クラブ」室と会館外で水のあるところに設置された体験場所に移動しながら、体験型講習を受けた。体験課目と説明員は次の通り。

講習課目	説明員
①水の備蓄と水の様々な運び方の体験	福田
②災害時のトイレ対策：災害時トイレの使い方・体験	三宅、野中
③家具類の固定方法+ガラス飛散防止対策の体験	橋本、松井
④災害時の灯り(照明)+通電火災対策	山下
⑤災害発生時に身を守る基本行動：「シェイクアウト訓練」	合図(福田)
⑥食糧の備蓄と災害食の食体験(アルファ化米などを食す)	水本、館、野本

- 10時10分～12時過ぎまでには、A班、B班、C班とも①～④を終了した。
- 12時過ぎに、「地震だ」という声があり、姿勢を低くして机の下にもぐり「頭を守る」姿勢をとる人、窓ガラスから離れる人、その場で約2分間、身を守ってじっとしていた。

〈食糧の備蓄と災害食(アルファ化)の食体験と振り返り〉12時過ぎ～12時40分

A班、B班、C班と班別に着席した。出席者にアルファ化米(2袋)とペットボトルの水(1本)を配布。アルファ化米の表に記載されている方法に従って、各人が乾燥剤とスプーンなどを取り出し、机の上にあるポットから袋に記載された線までお湯を入れて、15～20分待った。各テーブルには「ジャガリコ」を配布し、湯を入れ、こねてサラダにした。副食品として、ひじき、味噌汁を配った。

その時までには災ボラの災害食担当（3名）が見本として作ったご飯一炊飯袋（ハイゼックス）で炊いたご飯を各テーブルに配分し、試食してもらった。（災ボラが保有していた炊飯袋は全て売り切れた）
食事が終わる頃に、アンケート調査票を配り、記入してもらった。同時に、班別に自己紹介を兼ねて話し合いをしてもらうように呼び掛けた。（班の討論というより個別の話し合いとなったようである。）

《全体会議で出された質問や感想》

●水や食糧のところで、「日常備蓄」（＝「ローリング・ストック」）という話を聴いたが、水の備蓄の場合、どのように使っているのか？という質問が出された。ペットボトルの水は時々、コーヒーや飲料水として使い、また補充しているとか、水道吸いを備蓄している場合は、花壇の水や金魚鉢の水として使っていると回答した。

●「東日本大震災から6年たって、地震に対する関心もだんだん薄れてきた」、「こうした体験型講習を受けることは重要だ」、「大変、参考になった」、「早速、家に帰って実践してみる」などという意見が出された。（出席者の感想については「アンケート調査のまとめ」を参照）

●海老名災害ボランティアネットワークの活動を紹介しPRしたところ、次の質問が出された。
「このような防災訓練を自治会で取り組みたいと思った場合、災ボラは協力してくれるのか」という質問が出された。2017年7月22日にサンパルク650自治会で「体験型講座：減災・災害対応訓練」実施し、災ボラが用具を貸出、自治会役員に対する事前講習などの協力を行ったことを紹介した。
また、「誰に連絡すればよいのか」という質問が出されたので、橋本代表と福田副代表の携帯電話番号をホワイトボードに記載し、代表または副代表へ連絡して欲しいと回答した。

《アンケート調査の結果、まとめ》

問1 事前の準備や対策が「ほぼ出来ているか」、「ほとんど出来ていないか」に関する質問であった。
質問と回答数（複数回答）は、下記の通り。（回答者は22人）

事前の準備と対策（課目）	出来ている
1. 食糧備蓄と災害食づくり（備蓄と炊飯の準備）	13
2. 水の備蓄と水の運び方（水の備蓄）	17
3. 災害時のトイレの使い方（ビニール袋などの準備）	14
4. 家具類の固定方法（金具やバンドなどで固定した）	10
5. ガラス飛散防止対策（飛散防止フィルムを貼った）	1
6. 災害時の照明の準備（懐中電灯や電池の準備）	19
7. 通電火災防止対策（日頃の注意、ブレーカー復旧）	8
8. 災害発生時に身を守る基本行動・シェイクアウト（身についたか）	20

○「ほぼ出来ている」の回答者数を見ると、「8. シェイクアウト訓練」では22人中20人が出来ていると回答している。同様に、「6. 懐中電灯や電池の準備」が19人、「2. 水の備蓄」が17人、「3. ビニール袋などの準備」が14人、「1. 食糧の備蓄と炊飯準備」が13人、「4. 家具類の固定」が10人、通電火災防止対策では8人、「5. ガラス飛散防止」で1人が「出来ている」と回答した。

前頁の質問項目（8項目）のうち、5項目以上「ほぼ出来ている」と回答した人は11人、4項目に「ほぼ出来ている」と回答した人は8人、3個以下の人が3人となっている。体験講座に出席した市民は、防災・減災への関心が高く、かなりの備えをしている人が多いとみられる。
 （災ボラの会員も、このアンケート調査票に回答して、自分でチェックして欲しい。）

問2 事前の備えや減災・災害対策として不十分なところを充実させるように、ぜひ、皆さんの家で実行してください。実行する場合、問題となることはありますか？下記の中で、当てはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでもよい）

選 択 肢	回答数
1. 心身の衰えで自分ではできないので、誰かに頼みたいがそういう人がいない	1
2. 仕事・生活・趣味などで忙しく、災害対策に時間をかける暇がない	6
3. 災害対策のための備蓄や用具の購入に多少の費用がいるが、その金がない。	0
4. 事前の備えや災害対策の必要性は分かるが、やり方が未だによくわからない	7
5. 災害対策を十分に実施しているので、特に問題となることはない	3
6. その他（ ）	3

その他の内容は次の通り。○耐震・防火住宅で、十分とは言えないが、基本的にはやっている。
 ○意識もあるが、いずれも不十分。
 ○問1で出来ていない課目をぜひ実行したい。

問3. 本日の「体験型講座：減災・災害対策訓練」に参加して、主に感じたことは何ですか？
 海老名災害ボランティアネットワークへのご意見でも結構です。

●自由記入欄に出席者(22人)が書かれたことを原文のまま書きました。○は1人の意見です。

○大変参考になりました。ありがとうございました。
○大変有意義な体験となりました。ありがとうございました。
○実際に体験出来てよかった。
○実際に気をつけなくてはならない事、準備しなくてはならない物が分かり、大変参考になりました。多くの人に知ってほしいと思いました。
○講義だけでなく、実際に見て行ったのがとても良かった。
○とても良かったです。初めてのことが多くあり、机上の話ではよく分からないのですが、項目毎に、短時間で説明、実習で、こういうのは初めてで、よい体験になりました。きょうはよく分かりました。
○課目が具体的で災害時に役立つ内容であった。実践にむすびつくように日頃から意識していきたいと思います。
○色々、知らなかったことをおしえて頂きました。さまざまな方法を知り、役に立つと考えました。
○生活環境が異なる方々が今回（出席）されていて、災害時の問題点を他の視点からから知ることができた。
○いくつかの講座に参加したが、本日がかなり有意義なものであった。これからも、こういった講座を続けてもらいたいと思います。
○ありがとうございました。たいへん参考になり、同じマンションの仲間にぜひお知らせしたいと思います。ネットワークの皆さん、本当にご苦労様です。今後ともご活躍を期待しています。

○減災・災害対策はなかなか大変だと感じた。まだ本気度が足りないのかな？グッズがいろいろあるのに驚いた。知識を高めないといけない様だ。

○準備しなければならないことが多いと思った。

○身近な物品利用で出来ることが分かり、良かったです。家族・会社で情報提供をしていきたいと思えます。今の状態に幸せを感じています。ありがとうございました。

○減災・災害対策について、身のまわりの物を使い、行えることが、大変参考になりました。

○ローリング・ストックという考え方で備蓄にそなえれば、場所を確保する考えでなく、安心できる。

○即実行です。特に食糧備蓄。

○トイレ対策、照明のとり方など、身近な物を工夫して使うことにより対策がとれることが分かり、とても良い経験になった。まずは、自分自身の身を守ることが大切とわかったが、自宅のどの場所においても、安全でいられるように、対策をとりたい。

○トイレの処理方法が参考になった。すぐ品物を揃えたい。

○参加して良かったです。ありがとうございました。ガラス飛散防止の話・方法などすぐに使いたいと思いました。

○防災・について、大変勉強になり、さっそく準備・充実に心掛けて参ります。自助の備蓄品等の保管場所の検討を重ねて参ります。感震プレーカー対策中。

○ありがとうございました。お話を聞きながら、「ああ、そうだ。〇〇〇を確認しなくては」と思いつくことが、いくつかありました。「手回し充電」が機種変更後のスマートフォンに対応しているか・・・など。マンションの玄関ドアが開閉できなくなったら・・・と少し不安です。用意した物を事前に試してみる大切だと思いました。

以上

2017年9月28日 (文責) 福田博